



謝諧溫故集全部

謝諧溫故集

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

○是れ柳や花や...

○是れ柳や花や...

○是れ柳や花や...

...の...

序

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

...の...
...の...
...の...

とひりくたのまきし草の
初まの尻しりし川

○松のまきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

○まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

まきし草のまきし草

いんぎん...
あまのこ...
あまのこ...
あまのこ...

あまのこ...
あまのこ...
あまのこ...

あまのこ...
あまのこ...
あまのこ...

あまのこ...
あまのこ...
あまのこ...

あまのこ...
あまのこ...
あまのこ...

あまのこ...
あまのこ...
あまのこ...

あまのこ...
あまのこ...
あまのこ...

あまのこ...
あまのこ...
あまのこ...

くらり...
くらり...
くらり...

くらり...
くらり...
くらり...

くらり...
くらり...
くらり...

くらり...
くらり...
くらり...

くらり...
くらり...
くらり...

くらり...
くらり...
くらり...

くらり...
くらり...
くらり...

くらり...
くらり...
くらり...

誹諧温故集之上

東武

雷風菴蓮谷選

四序混雜

權中納言定家卿

花を遠りけるの巻

大納言為世卿

系らるるの巻

あまのこ...
あまのこ...
あまのこ...

○そのもやいけそりてみぬ
みいふんふふふふふふふふ

西三條 實澄卿

山う勢と揃はし〜

是田ぬ監あり〜

近衛殿下 信ヨ守公

かひあ〜

大任あ武〜

鳥丸大納言光廣卿

名ふり〜

清あ〜 立花 西武

○秋〜のよの〜

○秋のよの〜
○秋のよの〜

○秋〜

○秋のよの〜
○秋のよの〜

○秋のよの〜
○秋のよの〜

○秋

○秋のよの〜

鳥丸大納言光廣卿

観〜

名使ら〜

○秋〜

同

〜

同

○秋のよの〜
○秋のよの〜

太閤 秀吉公

小田原やおまの〜

櫻井元佐

花のついでにみてもうさうさ

宗類法師

花のついでにみてもうさうさ

救舟法師

花のついでにみてもうさうさ

むの都乃らちをひを

千利休

花のついでにみてもうさうさ

里村法橋紹巴

花のついでにみてもうさうさ

狩野常信

花のついでにみてもうさうさ

瀬戸藤四郎春慶

花のついでにみてもうさうさ

花のついでにみてもうさうさ

千利休

花のついでにみてもうさうさ

新左衛門

被官舎や於美すちく川の山

壘川新右衛門親高

お芥子の命を帯すむる父の命

春の部

歳旦

元朝や非代のまゆもあまらさく 守武

元日のえさるそのまへん 不二の山 宗鑑

鳳凰も出まののちもききさりの年 貞徳

去来永とつふやま北あのかさり 立圃

我等武つ者ももまらやと朝の去 貞室

去来つらつとほし 望一

元日やぬぐさるるも 重頼

耕まをそりの耕ま 西武

改正

おれおどくやえ侍代と
うらふあいの長 季吟

月玉のうらむも何ん
候のうらむも 奉白

候のうらむも 奉白
かこつ 山夕

人日 奉白
おれおどくやえ侍代と 舟竹

陸母のうらむも何ん
候のうらむも 舟竹

候のうらむも 舟竹
あつとつ 舟竹

あつとつ 舟竹
あつとつ 舟竹

あつとつ 舟竹
あつとつ 舟竹

あつとつ 舟竹
あつとつ 舟竹

あつとつ 舟竹
あつとつ 舟竹

あつとつ 舟竹
あつとつ 舟竹

山花のるくくくくくくく

香く山あふすりりり

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

元日やさかた飛川のふりたる 来山

條のうへよりかき降りぬ後 山夕

後ひらり青身ぬ日もあはれ 其角

えおやや晴て雀のゆくゆく 嵐雪

透き珠の林原よ通ふ花の都 鬼貫

初日の初光りわやくわみ山 一晶

秋の嵐の二ら探さかり勝竹 無倫

神宮や船のききりの貢也 露言

わん活玉もくまきくきりま 神叔

後とて條も新ありむのま 似船

神宮や推すりまも鞠の言 介我

え日のまやあま清きりり 沾徳

江戸歳のまよと連ひて

兼好の死おとしめよまの春 支考

きねり親の名をわらふまよ 野坡

椋倉よりまよとすつり休のま 沾洲

信保作やまよの帝とる 青城

よの氷やまよもまよあはれ 貞作

Various small notes and signatures in the top left corner, including '素堂' and '己九月十二夜遊園中 十二唱'.

いよいよ八月廿二日

人日

いよいよ八月廿二日

いよいよ八月廿二日

いよいよ八月廿二日

いよいよ八月廿二日

いよいよ八月廿二日

いよいよ八月廿二日

いよいよ八月廿二日

いよいよ八月廿二日

梅の香もささるる

梅の香もささるる

梅の香もささるる

梅の香もささるる

梅の香もささるる

梅

梅の香もささるる

梅の香もささるる

いよいよ八月廿二日

梅の香もささるる

梅の香もささるる

梅の香もささるる

梅の香もささるる

梅の香もささるる

梅の香もささるる

梅の香もささるる

梅の香もささるる

梅の香もささるる

あつたまは 哀の
たつたけ 15荷
そつこのころは
あつたまは
早稲をいれし
あつたまは

ま出くくくくくくく
秋のくくく 春の

讀甲陽軍談

わくわくくくくくく
まがくくくくく

少少くくくくく
くくくくくくく

あつたまは 腹の
ひくくくくく

ま難くくくく
まがくくくく

霜踐至堅氷
初雪の床の
まがくくく

氷海を氷々水の
くくくくく

まがくくくく
まがくくく

半筋半壁辞
まがくくく

まがくくく
まがくく

水くくくく
くくくく

くくくく
くくく

くくくく
くくく

くくくく
くくく

くくくく
くくく

くくくく
くくく

柙

投入くくくくく 柙の部 春澄

毎くくくくく 柙の部 不卜

入おのくくくく 柙の部 調和

只ひ至てあつたま 柙の部 才警

岸繪くくくく 柙の部 乙由

海わげのくくくく 柙の部 貞作

三日月とゆくまらめく 柙の部 助史

淀のまへる声くくく 柙の部 古城

木兔の餅りくくく 柙の部 琴風

まぐくくく 柙の部 立隠

まがくくく 柙の部 一漁

八九るくくく 柙の部 芭蕉

まがくくく 柙の部 珪琳

下くのくくく 柙の部 成屋

猿のちうくく 柙の部 蓮谷

まがくくく 柙の部 柙居

哀

あゝのげふ浮橋次の極可重 同

樂

あゝのげふ浮橋次の極可重 同

生

あゝのげふ浮橋次の極可重 同

死

あゝのげふ浮橋次の極可重 同

昼

あゝのげふ浮橋次の極可重 同

あゝのげふ浮橋次の極可重 同

夜

あゝのげふ浮橋次の極可重 同

晴天

あゝのげふ浮橋次の極可重 同

雨天

あゝのげふ浮橋次の極可重 同

會者

あゝのげふ浮橋次の極可重 同

世のあゝのげふ浮橋次の極可重

あゝのげふ浮橋次の極可重

あゝのげふ浮橋次の極可重

あゝのげふ浮橋次の極可重

あゝのげふ浮橋次の極可重

あゝのげふ浮橋次の極可重

あゝのげふ浮橋次の極可重

あゝのげふ浮橋次の極可重

あゝのげふ浮橋次の極可重

あゝのげふ浮橋次の極可重

つとて是の... 悲し
草木... 花...
そ... 花...

云... 都のむよ自... 奉徳
立圃

菩提山あり

ちる花を... 守武

櫻のふりむよわ... 芭蕉

花... 来山

...

ちる花... 盤谷

水花
...

...

本功... 懐旧
...

その... 詩... 花...
...

著
西
行
上
人
類
質

西
行
上
人
類
質

貞
德

芭
蕉

舉
白

類
質
上
人
行
西
著

類
質
上
人
行
西
著

一重万句を以

こころしつゝ万句一重
筆の如 風流

こころしつゝ万句の敬
まじり

大徳公御遊その

まじりの御年
まじりの御年
まじりの御年
まじりの御年

四十二の如し

あまの御心始御中
まじりの御年
まじりの御年

町公御心始御中

あまの御心始御中
まじりの御年
まじりの御年

志願中御遊その

まじりの御年
まじりの御年
まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年
まじりの御年
まじりの御年

三晋もさむ

まじりの御年
まじりの御年
まじりの御年

まじりの御年
まじりの御年
まじりの御年

まじりの御年
まじりの御年
まじりの御年

まじりの御年
まじりの御年
まじりの御年

まじりの御年
まじりの御年
まじりの御年

まじりの御年
まじりの御年
まじりの御年

まじりの御年
まじりの御年
まじりの御年

まじりの御年
まじりの御年
まじりの御年

まじりの御年
まじりの御年
まじりの御年

まじりの御年
まじりの御年
まじりの御年

高橋あつりしるし 居士と行合
いつちへうりしるし

我事としておれぬ名

おれぬ名

禪さへもも常すはらり

まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年

まじりの御年

未 陌

重 頼

貞 室

来 山

嵐 雪

立 圃

水 田

すて

琴 風

瓢 斗

負 作

加 友

蓮谷亭りめ
三井るの形

竜宮のむあつてあめの後いあそ

うへをトへえいさう山のむいん

昔の紅了 秋又とよふ
あまきくも 國とやの
なをさくも けい
うきさくも けい
紅の色
山後さくも けい
夜さけ
朽木さくも けい
夜さけ

夕
うきさくも けい
うきさくも けい
風のさくも けい
夜さけ
あまきくも けい
うきさくも けい
うきさくも けい
うきさくも けい

うきさくも けい
うきさくも けい
うきさくも けい
うきさくも けい
うきさくも けい
うきさくも けい

因方とゆき
うきさくも けい
うきさくも けい
うきさくも けい
うきさくも けい
うきさくも けい

牡丹

親王とよふ けい
眠る様とよふ けい
大星とよふ けい
咲とよふ けい
もよふ けい
生貝の耳とよふ けい
入おとよふ けい
あつとよふ けい
立圃
来山
専吟
琴風
蓮谷
貞佐
琴風
専吟

塹

ゆきとよふ けい
葛のけい けい
義とよふ けい
戸塚とよふ けい
周竹
貞佐
超波

大の初とよふ けい
我とよふ けい
月とよふ けい
人のとよふ けい
英蝶
言水
素堂
其角

短夜

みくしの夜の後乃ち花や横の沢 空存
後夜いふものよめいふまはる 一品

重五

丹田をたの鳥をわさしと花のふ 言水
定はるのこの指とく懺の都 貞佐
懺の風をわさすや花のふ 玉芝
あやしくわむらひの心 百里

五月雨

いふやや傘をたふ小人形 其角
あやや傘をたふ小人形 鞭石
あやや傘をたふ小人形 超波
あやや傘をたふ小人形 黒露
あやや傘をたふ小人形 瓢斗
あやや傘をたふ小人形 蓮谷
あやや傘をたふ小人形 立吟
あやや傘をたふ小人形 貞室

天七恋しれし恋し

先の心

後夜の心

あやしくくく巨徳を

あやしくくくくく

あやしくくくくく

あやしくくくくく

あやしくくくくく

あやしくくくくく

あやしくくくくく

あやしくくくくく

あやしくくくくく

あやしくくくくく

あやしくくくくく

あやしくくくくく

あやしくくくくく

あやしくくくくく

あやしくくくくく

あやしくくくくく

あやしくくくくく

あやしくくくくく

あやしくくくくく

夕立の音も
あつた心持の
葉のふの月
夕立の音も
あつた心持の
氷室の音も
あつた心持の

夕立の音も
あつた心持の
氷室の音も
あつた心持の
夕立の音も
あつた心持の
夕立の音も
あつた心持の

夕立の音も
あつた心持の
氷室の音も
あつた心持の
夕立の音も
あつた心持の
夕立の音も
あつた心持の

螢

螢力のしと
螢のしと
螢のしと
螢のしと
螢のしと
螢のしと
螢のしと
螢のしと

花田言

花田言のしと
花田言のしと
花田言のしと
花田言のしと
花田言のしと
花田言のしと
花田言のしと
花田言のしと

花田言のしと
花田言のしと
花田言のしと
花田言のしと
花田言のしと
花田言のしと
花田言のしと
花田言のしと

花田言のしと
花田言のしと
花田言のしと
花田言のしと
花田言のしと
花田言のしと
花田言のしと
花田言のしと

鴉船

鴉船のしと
鴉船のしと
鴉船のしと
鴉船のしと
鴉船のしと
鴉船のしと
鴉船のしと
鴉船のしと

鴉船のしと
鴉船のしと
鴉船のしと
鴉船のしと
鴉船のしと
鴉船のしと
鴉船のしと
鴉船のしと

Handwritten signature or mark at the bottom right corner.

天候：少雨、曇り、時々小雨

真夏の暑い日、汗を流す

朝の涼しい風、気持ちいい

夏の風情、涼やかな景色

夏の思い出、思い出の場所

夏の思い出、思い出の場所

納涼

夏の思い出、思い出の場所

川

夏の思い出、思い出の場所

夏夜

夏の思い出、思い出の場所

夕暮

夏の思い出、思い出の場所

夏の思い出、思い出の場所

夕暮

夏の思い出、思い出の場所

夕暮

夏の思い出、思い出の場所

夕暮

暮

夏の思い出、思い出の場所

夕暮

夏鼎なりちうりつるまふいぬる
檀雲よ嵐の雲一あまふ
かゝる日ハ中くあまふとあまふ
檀
檀

清水

目出しりの名より後る清水
楊梅のなまてまふく清水
石佛たうくまあしんまふく
あまふ清水と通る清水
常牧
未陌
一品
若兮

蓮

そりや蓮よりあまふて居心
六月の地獄よりさく蓮の那
蓮のなまやけと株の山
小力の罪おほくさく蓮の
養のよりのさくあまふと蓮
湖
檀
欠
曉
又美

白雨

あまふらふりあまふらふり
不ト

百七の巻

夕立や田とよあけの結あけ キ
 中つみや牛の草ト乃種産す 玉
 ともや泣きあふまぬ日中 蓮
 夕立やさしあふ人の腕さけり 雪
 中つみや牛をさかふる傀儡師 キ

夏

香月花つまらえする卯月 矢
 唯れの情こころいりまわら 多

乞食の天竺をさぐる矢夜 キ
 かろあはき根乃あそむるあそ 矢
 まげやあそりのおめね 一
 月輝や松糸あへいる山 石
 ひたすらうやもあつら 一
 灌佛や乳ハきくらぬも比丘尼 乙
 めつみや入梅の中此あきの雲 晚
 八雲や泣きあふまぬ 虎
 八雲や泣きあふまぬ キ

嵯峨よて

雲霧をくぐりて空の雲もかきよし 其角
 悠々として風も下りて空の雲もかきよし 才磨
 ささきさきさきの果糖さきさきさき 尚白
 物産をわたりて右の空の風もかきよし 沾洲
 売らるる風もかきよし 大月相 琴風
 ありてさきさきの富貴の風もかきよし 済通
 瘦てさきさきの藤陣の風もかきよし 序令
 風ありて物もかきよし 日能居士 百里

蚤

不二の山雲、茶臼乃おのひふ 芭蕉
 素法とあるは 雲のり来り 才磨
 それさきさきの秋の夜もかきよし 嵐雪
 ぬり揃よさきさきのや雲の逢の末 尚白
 雲の何れもさきさきの 雲の逢の末 百里

享保己酉の冬 南粵とらふかきよし
 名歌を日中へついでに 同くかきよし
 ありて名歌とあるは 雲の逢の末

天竺の帯もかきよし 沾洲

Handwritten notes in the right margin of the right page, including the characters '仙鶴' and '音城'.

大衆の傾倒を仰ぐ

今世不二の如く

萬物に於ては

萬物に於ては

其の如く

其の如く

其の如く

其の如く

其の如く

音城

仙鶴

暴室

起波

蓮谷

蓮之

貞作

六

誹諧温故集之下

秋の部

三秋

東其 雷同菴蓮谷選

蓮谷

尚白

蓮谷

之功與

を花さすもよき月
持てよき 村井
一花さすもよき月
板方のふれ花太極

ちかき月川のふれ
芒下 柳浪

きしきのこりり月
居えん 佛仙
新よりの月 越蓋
石の月 馬小

ちかき月川のふれ
佛氏結い月 花
ふみかの月 必化
んては月 青島
むしきの月 光邦
ふみかの月 珪珠

甲の月さすもよき月
秋の月さすもよき月
の月さすもよき月

薄

漸く月さすもよき月
角さすもよき月
楓さすもよき月
岩中の月

秋の月

月さすもよき月
月代さすもよき月

秋の月さすもよき月
秋の月さすもよき月
天の月さすもよき月

秋の月さすもよき月

月撰人よき題と

月さすもよき月
月さすもよき月
月さすもよき月
月さすもよき月

其蒼
琴風
古
立志

兎貫
其角
堤亭
嵐雪

貞徳

立圃
素堂
鋤立
光貞妻

貞佐

虚谷
今徳
沾徳
貞佐

深きよして能く不の月を伴はる
其用

承應元年八月廿九日

貞室西武の志を以てし

何神園の事なり

天のくみもむらさきの月
貞徳

海を渡る人のまはるる
貞室

鳩鳥をまはるる
西武

李夫人去漢皇情

月をみよふとわらふ神多
貞佐

楊貴妃歸唐帝思

若月をのぞくもあはれ
超波

會芭蕉菴辞

山素堂

いづれもいづれも月と欲ひてきく月を

いづれもいづれも月と欲ひてきく月を

いづれもいづれも月と欲ひてきく月を

いづれもいづれも月と欲ひてきく月を

いづれもいづれも月と欲ひてきく月を

いづれもいづれも月と欲ひてきく月を

いづれもいづれも月と欲ひてきく月を

いづれもいづれも月と欲ひてきく月を

いづれもいづれも月と欲ひてきく月を

いづれもいづれも月と欲ひてきく月を

いづれもいづれも月と欲ひてきく月を

いづれもいづれも月と欲ひてきく月を
素堂

名月や柳のふらふらと
ちゆよふらふらと
芝海元の松もふらふらと
名月や海もふらふらと
秋をの泉もふらふらと
名月や松のふらふらと
人をもよほすふらふらと
源金のたもとふらふらと
名月やふらふらと
名月やふらふらと
名月やふらふらと

嵐雪
路通
貞佐
琴風
白雲
貞佐
山夕
黒露
丹雲
菊輔
蓮谷

名月やふらふらと
名月やふらふらと
名月やふらふらと
二十里の印もふらふらと

鶉

名月やふらふらと
名月やふらふらと
妻もよほすふらふらと

花雀
蓮谷
其蒼
杉風
沾洲

休甫
古
青峨
貞佐

名月やふらふらと

其用

丁の... 葉根
柳根

破... 橋... 嘯

初ノア山ノ...

初ノア...

初ノア...

初ノア...

初ノア...

初ノア...

礎

初ノア...

初ノア...

初ノア...

ら

乙由

蓮谷

佑徳

珪琳

蓮谷

芭蕉

蚊足

蓮谷

乙由

蓮谷

立志

乙由

蓮谷

桃隣

玉蛾

蓮谷

其角

海念の妙...

鳴子

...

...

...

...

...

...

...

新進紙子

一葉のあはれをわが
古紙子 昇角

水尻昌供養

水尻昌の縁縁を
病氣を 凡神

幸途途中吟

いづれも麻がををのまの
凡神

いせはホ

雲の入して川しき
秋の夜

ひろくろく一も竹葉の
りいし

拾のい

いしししししししし
秋の夜を今ししし
多岐よ再今と祭と
二入といまうふ秋の
凡神

ふの月夜を
凡神

宗伯

あきの月夜を
凡神

あきの月夜を
凡神

あきの月夜を
凡神

あきの月夜を
凡神

あきの月夜を
凡神

あきの月夜を
凡神

あきの月夜を
凡神

あきの月夜を
凡神

あきの月夜を
凡神

あきの月夜を
凡神

いづれも御の美後のもじり

葛葉

葉のあはれを
凡神

いづれも御の美後のもじり

秋雲

秋のくもを
凡神

いづれも御の美後のもじり

秋

秋のくもを
凡神

いづれも御の美後のもじり

秋のくもを
凡神

いづれも御の美後のもじり

秋のくもを
凡神

いづれも御の美後のもじり

宗祇法師三回忌

秋のくもを
凡神

いづれも御の美後のもじり

秋のくもを
凡神

いづれも御の美後のもじり

其角

嵐雪

宗因

卜尺

鬼貫

慶友

芭蕉

言水

其角

常陽

乙由

一鼎

風水

宗鑑

尚白

無倫

真佐

延波

この里のそと... 六歌仙... 蓮谷

對園女辭

西鶴述

伊勢小町... 遠く浪速の里... 箱磯の海... 舟... 妻... ち... 女... 秋

蓮谷 琴風

この例の... 此の... 此の... 此の... 此の...

秋風の... 清花... 月... 娘...

西鶴 其用

極の... 澄の... 花... 草... 山... 依... 春...

嵐雪 一品 超波 敬雨 蓮谷 珪琳

山崎
山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

當上寺

山崎

山崎

山崎

山崎

鐘倉一覽亭記

雷蓮谷迷

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

珪琳

其角

黒露

宗瑞

餅慶

蓮谷

山さへ佛よ中
 一寸も廣くおし
 推奪
 左葉
 啼くつら 里四

落葉

木の葉らうひまよひむし撞傷

春澄

まよひもこの月らうとる

素堂

思ふ電洞とこのうら

貞佐

くろくろの葉よあつら

乙由

あつらふ佛のほよ

珪琳

篠田のあめ

あめの葉のふもや

蓮谷

初雪

くろくろの葉よあつら

如泉

くろくろの葉よあつら

宗瑞

初雪を神を

超波

くろくろの葉よあつら

安士

初雪を

木因

雪

かたや焚ぬむし

忠知

まのねら恨もえ

宗因

くろくろの葉よあつら

其角

くろくろの葉よあつら

徳元

次郎

くろくろの葉よあつら

こち

雪降りてつねは静しきの雪も

路通

雲よりとあらしのこぼれ

しん

はれしきよきとむすの物

休甫

或るふきのちりまふ

貞佐

意しきしきしきしきしき

去来

雪のちりまふちりまふ

晩山

必死の吟

山さゆりかおつし川の雪

大高氏 子葉

寒山賛

雪のちりまふしきの雪

其角

雪のちりまふしきの雪

殊色

秋の雪もももももももも

玉娥

大雪のゆきもももももも

貞佐

初雪のゆきもももももも

まきまき

身の内もももももももも

蓮谷

雪のちりまふしきの雪

挙白

遊女の吟三章

雪のちりまふしきの雪

まき

雪のちりまふしきの雪

鳥雲

雪のちりまふしきの雪

小糸

寒

り柳の傍か對し

雪のちりまふしきの雪

任是人

門はよ不土えぬ日のまは
あまの氣もいふはむら

沾洲
園女

後行

大島の深らゆも移るまは
流石の息をんつくるまは
くく切よ吸よのまをまは

許六
瓢斗
許六

耳家ゆ

耳くく鼻もかぐれぬまは

蓮谷

芳根流ゆ

流石けく二羽くまはまは

同

夢林庵夜話

灯のありきけいふまは

同

紙子のくねもねの紛

乙由

隣り今そ枝の松くね

巴靜

霜

白仙長老と夜話きもけい

古寺や痛切り大根のまはの音

東潮

熊坂のち刀ありふるまはね

老鼠

奈良ゆ

まふくく麻とねきり今ねのま

蓮谷

初をねく衣まきりく流の音

野波

妙身童女と葬りて

柳子のよに投てす魚み氷川

貞佐

苔清水

ころころの音をはきつて氷うる

蓮谷

鉢敲

ふるふる川の流に敲く鉢敲

其角

ゆきゆきゆきゆきゆきゆき

素堂

今と昔しはあんなにさうさう

嵐雪

ころころと音えいゆしゆさ

其角

世の中はさうさうさうさう

尚白

さうさうさうさうさうさう

超波

長瀬の墓はさうさうさう

長瀬

鉢敲歌

ゆきゆきゆき

ゆきゆきゆき

ゆきゆきゆき

ゆきゆきゆき

ゆきゆきゆき

世と可らけい

氣のたけい

七十古来

下川に流る

ゆきゆきゆき

晋其角

候しの一命

ゆきゆきゆき

ゆきゆきゆき

ゆきゆきゆき

ゆきゆきゆき

ゆきゆきゆき

ゆきゆきゆき

ゆきゆきゆき

ゆきゆきゆき

ゆきゆきゆき

多しうくねめあまのく桐大楠
大楠抱く願縁をかくしう

宗瑞
路通

十鳥

浪風ハ之ハ中ハ一友多き

真室

一羽さう二羽さう後めふき

巴靜

根のありしう酒を流らむ

史邦

唐の海へもさうしうも守画

蓮谷

芳さうしう心さうしうめり

其蒼

さうしうり我内さうしう小松

甘谷

由良の漢

ふさしうは浪下さうしう流る

蓮谷

或のさうしう

さうしう分け獨川を流る

珪琳

網代守

藤りさうしう月さうしう出さ

木樽

網代守字作のち昇さうしう

許六

あささうしうまさうしうさうしう

支考

さうしうさうしうさうしう網代守

超波

しうしう茶師の甥しう網代守

蓮谷

能あさうしうさうしうさうしう

真佐

冬篇

金屏の松花古しうさうしう

冬篇

大根の味くしありきなり

珪琳

田楽の法所

百里

人を吐き出さるる

十那

おろし

貞徳

はし

其角

白見世

魚のやうに二丁町

巴人

うは

珪琳

おろし

超波

うは

蓮谷

うは

青城

寒念佛

舞

貞徳

ま

蓮谷

湯飯の味

其角

冬

列卒の

守武

お

信徳

年

一鉄

鶴の

無倫

茶の

書堂

と

未得

いほしとて美しき事ありて帰るを
素秋
まね解くもあはれなる事ありて
岸白

半醉半醒の辞

祐成翁とて少府の侍宗とて
曲水
が用や江の島とて同山
貞佐
之は海狗とてくもさすれ
専吟

平河とては名所の古蹟也

らるる事あるも果ては夕の柳
珪琳
琴を奏するも名所風とて
柳居
近き所とて昔の事とて
遠里
遠き所とて昔の事とて
菊輔

義仲寺や〜の墓とて

十月のむもさきもたきも
珪琳
みも衣裳祝とて
共角
枯の野のつらねはひも川
百里
か〜舞もさ他の體もさ
芭蕉
さ〜着の衣のらもさ
宗因
茶の色のさ〜もさ
李蹊
いさのさ由もさ

花のさの枯〜もさ
蓮谷
さ〜一首もさ
由
さ〜もさ
共角

煤拂

霧も宿もくさくさな梅もひ

幽山

まゆりもくさくさな梅もひ

乙由

大黒のひもくさくさな梅もひ

すくすくけくさくさな梅もひ

玉蛾

よのよを祈りてと

梅神人の梅を梅も梅もひ

蓮谷

町人の梅も梅も梅もひ

藪輔

年暮

常法天もくさくさな梅もひ

貞徳

よのよを祈りてと

貞室

月も遠く耳もくさくさな梅もひ

西武

いりもくさくさな梅もひ

玄礼

年暮もくさくさな梅もひ

芭蕉

白もくさくさな梅もひ

書水

おのれもくさくさな梅もひ

信徳

いりもくさくさな梅もひ

路通

念もくさくさな梅もひ

雲靴

人形もくさくさな梅もひ

貞佐

享保九年

初風アいせの山田うり梅也のあ

やうりせくさくさな梅もひ十四年

いりもくさくさな梅もひ

わがよみてた御のこころはゆたかのごい
とすすけはにゆわのりけんごちを
けんとおし
おれをよこしつづいておし

鳥護増賀夜

翁一如淡々よき 年終 支考

花感西行時

ちよきく洞をよまのり
はしし年の顔のゆもハ
た年てひあめは終のまのさ
弾よのよき言鞠の事なる
おのりてはれ笑ふぬ
同 徳元 其角 和英 嵐雪

分よい身のそよき
とよきよあつあつと
文麟 珪琳

阿漕の浦よき

月よきよいよきハ所もハ
市よ入よきハと所もハ
蓮谷 素堂

光陰道行

晋其角

素きよあつあつと
あつあつとあつあつと
ひよあつあつとあつあつと
二ん厚い分のあつあつと
かよつあつあつとあつあつと

祐威のしるしをよりのたふし
あきらかに目あしよりの女の泪は
くろくもくもく雨を新しき林も
くろくもくもく雨を新しき林も
くろくもくもく雨を新しき林も
くろくもくもく雨を新しき林も
くろくもくもく雨を新しき林も
くろくもくもく雨を新しき林も
くろくもくもく雨を新しき林も
くろくもくもく雨を新しき林も

しるしをよりのたふし
あきらかに目あしよりの女の泪は
くろくもくもく雨を新しき林も
くろくもくもく雨を新しき林も
くろくもくもく雨を新しき林も
くろくもくもく雨を新しき林も
くろくもくもく雨を新しき林も
くろくもくもく雨を新しき林も
くろくもくもく雨を新しき林も
くろくもくもく雨を新しき林も

真徳
言水
桃隣
百里

わらわち中よ南のちしむる
栞しよ南のちしむる
多ふい南のちしむる
蓬萊の種ふようしよ南の
妹りよい神のちしむる
漫成五倫

貞佐

立志

園女

西鶴

其角

君臣有義

家のあきしむるを忘るる年忘
彼端のよのちしむるしよ内紙

其角

沾徳

父子有親

飯けを惜しぬるしよ
ありしむ打先児丸の栞のち

其角

沾徳

夫婦有別

御しむるしよしよしよしよ
しよしよしよしよしよしよ

其角

沾徳

長幼有序

袴着の娘のよしよしよしよ
栞しよしよしよしよしよ

其角

沾徳

朋友有信

君し我しむるしよしよしよ
よのちしむるしよしよしよ

其角

沾徳

渡辺綱生まつていふ事

総てつらう等のいふ物つもの 其角

口天皇大江山の事

源家つて総てつもの 及のいふ 山夕

千丈の嶽と登る事

ふきふき風流とていふ事 山嵐雪

源義家弓馬と説く事

鳩花つていふ幅とていふ事 氷花

同奥州攻の事

あ九年敵のいふ事 専吟

宗任都つていふ事

同如くいふ事よのいふ事 物つもの 琴風

平忠盛祇園の灯つていふ事

あつていふ事つていふ事 井目宮 浮生

源頼政鶴と村事

いふ事つていふ事つていふ事 佐例

平相國清盛友位よつていふ事

あつていふ事つていふ事 露言

富士川とていふ事つていふ事

あつていふ事つていふ事 蓮谷

田原又たつていふ事

あつていふ事つていふ事 青嶽

赤江山角力の事

角力よりまさりて秋のあけぬ

山嵐雪

頼朝よりよのこゝろあり

佐藤よりよのこゝろあり

貞佐

同七騎落の事

いづれ武とよき後門の事

祐徳

實盛討死の事

松原を破りて湯の地へ

貞佐

義仲無事の事

山吹も巴もいづれも田舎の事

許六

いづれも巴もいづれも田舎の事

徳もやうに梳き通し

専吟

一の谷の事

徳の尾より梳き通し

祐徳

忠房と赤坂を組討の事

あはれ組あり

宗因

忠房一首の事

忠房よりあはれ

其角

いづれも合戦の事

川原を破りてあはれ

超波

平家よりあはれ

豊後守いづれもあはれ

野水

義経と流し

を何とすのそとてふをよそ

佳風

新盛

徳谷とていふ向うに牡丹が

蓮谷

新法とていふやと流川の

かんとて流のばまをけりら部

貞佐

那須と市扇の的

矢行りてよつてさしあふ羽が

蓮谷

菊王丸矢流とていふ

室門とていふまては徳の

貞佐

盛綱友との

頼朝御平天下の

立心

多仙よら門神もあつりきり

乙由

栗津と系合戦の

新島とていふは流のまを切

尚白

巴勇力の

流傳とていふとていふ斗り炭

正秀

今井四郎自害の

兼平の喰や死りりた力の魚

白雲

義仲流矢とていふ

田の向うに村とていふとていふ

堤亭

景清頼朝を誅す

二子のたもと包むの芥をむく

琴風

景清流るの親をのち

枯枝の継ぎをうむのうらみ

超波

主馬の判官盛久を誅す

五月のちも花のちをうむる園

似春

義経留徳の園をむす

雲をうむのちゆきをうむる粟蒲美

其角

赤を又幼を帳をむす

滝力のつらさをうむる花をうむ

雲月

辨慶衣川を死す

新流るる流るのちをうむ

乙由

工友徳経控柄をうむ

うらむる河新の光をうむ

貞佐

和田酒盛をうむ

鳥をうむる鳥をうむる鳥をうむ

園女

竹留のちをうむる鳥をうむ

氷花

曾我兄弟竹傷を誅す

万歳を竹傷をうむる鳥をうむ

珪琳

同夜討をうむ

兄弟の敵を誅す

素来

十番切をうむ

武蔵野を富士の麓のこけり

其角

祐成のこけり

ふみしりしやのこけりしる部

貞佐

時宗生捕のこけり

蛾のこけりしる部

白雲

公曉の安貞朝公殺のこけり

熊蜂のこけりしる部

瓢斗

武蔵の春時政智の式と定のこけり

名丹の出しのこけりしる部

其角

名丹の時頼裁許のこけり

月影のこけりしる部

蓮谷

武蔵の滑川を渡りし

螢火を百りしる部

宗因

名丹のこけりしる部

かきよみの清りしる部

貞佐

常世の妙の空明寺一宿のこけり

くさの自然の浄念のこけり

超波

常世の妙の比叡寺のこけり

名丹のこけりしる部

不卜

不礼講のこけり

暁の反吐を清りしる部

其角

稲村のこけりしる部

甲貝にうらも知る以てしる

堤亭

長谷川源流を記す

かきつゝる久きも介におか

蓮谷

お換入道高時滅亡の事

運ぶつゝの事

同

正成の事

常の秋正成の山崎の事

柙居

千早城の事

いづて海をこしつゝ

許六

笠置落城の事

海をこして

蓮谷

東事記を根ふもの

貞佐

横井宿の事

梅子の事

芭蕉

正成の事

親の事

蓮谷

正成の事

梅子の事

素堂

正成の事

梅子の事

貞佐

梅子の事

晚山

梅子の事

珪琳

宗因

しんしん

之順

鳴出

常矩

親の杖

桐麻本

西鶴

毛り

あま

芭蕉

弟買

秋の口火く世のりりし時

脱きく次鞠場をるは雨の土

下 浪きく 光陰の 垢

赤穂くまのれは雨きく庭を指

指風呂あきく清き山伏

冷汁をさるぬきく雲の息

裸きく鼻をさるぬきく

小田原の風之流く川きく

余草をさるぬきくぬきく

月夕のうきくま冥持く

海流の涌くく新川

久米平田の側く二分借

中の町きく新川向ひ

ちりりりりりりりりりり

谷のをむく清きくをいり

誰くくく人 越くく人

粟穂菴印真吟

石道きく隣も常り柳きく

山もたうきく菊小夕陽

不痛の猿きく風の糸ハ起く

皆をさくあははえり川

和及け

水

居

此

信

振

小

大

山

次

東里

稻

一册

抄本

与...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

三吟 蓮谷亭真行

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

東里

真佐

蓮谷

里

佐

谷

里

佐

谷

里

佐

谷

里

佐

谷

里

佐

谷

里

榊水

一

鬼貫

少

和

子

子

之

日

之

之

之

之

之

之

之

之

之

之

榊水

榊水

榊水

榊水

榊水

榊水

榊水

榊水

榊水

榊水

榊水

榊水

榊水

榊水

榊水

榊水

榊水

榊水

榊水

榊水

榊水

谷

佐

里

谷

里

佐

谷

里

佐

谷

里

佐

谷

里

佐

谷

里

佐

谷

里

佐

東里

東里

東里

東里

東里

東里

東里

東里

東里

東里

東里

東里

東里

東里

東里

東里

東里

東里

東里

東里

東里

蓮谷

蓮谷

蓮谷

蓮谷

蓮谷

蓮谷

蓮谷

蓮谷

蓮谷

蓮谷

蓮谷

蓮谷

蓮谷

蓮谷

蓮谷

蓮谷

蓮谷

蓮谷

蓮谷

蓮谷

蓮谷

神

神

神

神

神

神

神

神

神

神

神

神

神

神

神

神

神

神

神

神

神

書林
市郎左門

そとくしつりいよひのまは

ありてそのりその 淀川なるとすえし 集をあらうし 昔の句集

の二集より凡のつて 集も花実集傳の言ふ極ひしりそ風流

いしし屋威のあし 集も花実集傳の言ふ極ひしりそ風流

集も花実集傳の言ふ極ひしりそ風流

守武も句集といふのつて集もといふもいし

是しよのせり 立免くる 編集の句集

元也 幽玄の心下を先 詞も深も皆古のくく

わめくたをりの 風流中を 雨雲派の論

よつり 海山楼のむさう えんく 貯てちり

神也いし

世はらうし

中かもし

真しと 赤心よ 志く 中し ちり

指中かき ちり 又いし ちり ちり

といふの 風流 ちり ちり ちり

ちり ちり ちり ちり ちり

風流 ちり ちり ちり ちり

ちり ちり ちり ちり ちり

ちり ちり ちり ちり ちり

ちり ちり ちり ちり ちり

ちり ちり ちり ちり ちり

ちり ちり ちり ちり ちり

ちり ちり ちり ちり ちり

ちり ちり ちり ちり ちり

美濃之松原志摩くむらじく飛騨の一札は
 村を志ひしうす酒屋も修めぬし
 阿るを海向の心の深き海さきよひも
 とも彼あるし一の好とつらる赤鳥鴨子
 の古言い心うさぬくまうハ好悪の
 一羽上偏やみしり何うハ居る
 園とやたまらん誰うハ勤ハて地め
 唐もきこいよし人と毒の中よやく
 必やかく免解を隠れ家の焼きを
 さしししはむもこの甲うあし
 此の...

のあしと家忘却のくすけ
 ちりしちりも温故集とよ歌を
 としししし 乾抽の二巻とあれるも
 むししししししししししし人
 ちりしししししししししし人
 け集ととととと人のくはあり
 け集ととととととととととと
 我心宿えをえりししししし
 け集ととととととととととと
 のをを感ししししし集を流り

朝方 世三層

川霧のいんげんが
まのち吹渡
川の氷割くも
吹渡りくも
刀ふんせも
とつてわらし
川霧のこころ
信分はゆきや
霧の何れも

若人えあし一樹の陰一ゆめ
流れを流しよる風流りあし
とや入るるもかりそめゆるふ阿人らも



鏡度のりり

雷風庵

蓮谷書

あ



右は幸々板汗減く今なき其有
東弥よおんそ是成てんも

文化十三

一由白鯉之主

丙子ノ年 井田心石所

明治四十四年

十二月二十一日 百石町久保氏

井田心石

買取 和名市大字

竹條崎板

竹葉青
十卷
卷一
卷二
卷三
卷四
卷五
卷六
卷七
卷八
卷九
卷十